

どんな境遇にあっても 生き抜くことができる！！

10月6日（日）～10日（木）まで高2の沖縄修学旅行に行ってきました。遺愛の沖縄修学旅行は18回目で、台風シーズンにもかかわらず18年連続で行くことができました。今回は全日程晴れで最高気温31℃を味わってきました。バスガイドさんに「この暑さでも沖縄では秋なんですか？」と聞くと、「真夏に比べると日差しはやわらかくなり朝夕は涼しくなるので秋です。」と答えてくれたのですが、旅行中の最低気温は24℃で、沖縄の10月は北海道から来た者にとってはやはり夏でした。

沖縄修学旅行では、琉球文化を学び、亜熱帯気候を肌で感じ、平和学習をしてきました。平和学習では平和祈念資料館ホールで新里スエさんのお話を伺いました。新里さんは85歳にはとても見えず、背筋がピッと伸び、1時間立ち続けながら、張りのある声で沖縄戦の体験と戦後アメリカ占領下でどのように生き抜いたかをお話してくださいました。

戦時中、ご主人は15歳の学徒兵で米軍機B29に追われ、必死に逃げ続けたそうです。のどが渇き水を得ようと探し、ようやく池を見つけ飲んだら、その池には死体がたくさん沈んでおり、蛆もわいていたそうです。そんな劣悪な状況の中でも生き抜いたそうです。

講演の最初、新里さん英語で私たちに挨拶を始めたのでびっくりしたのですが、その英語は、戦後、米軍に占領された沖縄で生き抜くために必死におぼえたものだそうです。周りから「アメリカの犬」と言われつつも生き抜くために米軍基地で働き、アメリカからいい所を学び、それを沖縄の復興のために役立てようと懸命に勉強したそうです。それらの経験から「くじけるな！あきらめるな！強い心をもって立ち上がろう。やろうとする意志があれば必ず道は開ける。一人一人の命、たった一つのかげがえのない宝物である命を大切に。どんな苦難だってのりこえられるよ！」という強烈なメッセージを遺愛生におくってくださいました。ほとんどの遺愛生が顔を上げてしっかりと聴き入っていました。

2019年10月11日（金）



1時間立って講演



謝辞の後の握手



花束贈呈